



第2760地区

犬山ロータリークラブ

■会 長：日比野 万喜男

■幹 事：稲垣 圭次

■会報委員長：梅田 佳和

事務所／〒484-0081 犬山市大字犬山字西畑 22-5

電 話／0568-61-5219 F A X／0568-61-5523

U R L／http://www.inuyama-rc.org/ e-mail／info@inuyama-rc.org

例会会場／〒484-0082 犬山市大字犬山字北古券 107-1 名鉄犬山ホテル

電 話／0568-61-2211 毎週火曜日／12：30～13：30

第2782回 例 会 (H 3 1 . 4 . 2 3 火 曜 日)

【職業奉仕担当 早朝例会 於：成田山大聖寺】

点 鐘 日比野 万喜男会長

R . S 手に手つないで 四つのテスト

幹事報告 稲垣 圭次幹事

1) 下記クラブは法定休日又は定款による休会又は
クラブ都合により(メーキャップ受付なし)です

クラブ名	例会日(曜)	クラブ名	例会日(曜)
犬 山	4月30日(火)	春 日 井	5月3日(金)
瀬 戸 北	4月30日(火)	尾 張 旭	5月3日(金)
岩 倉	4月30日(火)	名古屋空港	5月6日(月)
名古屋城北	4月30日(火)	瀬 戸 北	5月7日(火)
愛知長久手	4月30日(火)	岩 倉	5月7日(火)
瀬 戸	5月1日(水)	名古屋城北	5月7日(火)
小 牧	5月1日(水)	愛知長久手	5月7日(火)
江 南	5月2日(木)	春 日 井	5月10日(金)

下記クラブは例会変更です

クラブ名	例会日(曜)	場所(変更理由)
岡 崎 南	5月7日(火)	(創立記念例会)
各務原中央	5月10日(木) →5月9日(水)	(3RC 合同 パークレジャ活動)

☆名古屋城北 RC 例会場・ビジター料変更のお知らせ
<5月1日より>

【例会場】：名古屋東急ホテル

〒460-0008 名古屋市中区栄 4 丁目 6-8

TEL; (052) 251-2411/FAX; (052) 251-5635

【ビジター料】：4,200 円

出席報告 (野村憲治委員)

出席率 83.67%

会員 56 名 出席 41 名 欠席 15 名

欠席者 福富孝弘君 中村大輔君 小田渙己君

大澤渡君 谷定貴之君 塚原義成君

宇佐美芳樹君 山本幸夫君

前例会の修正(4/16 分)

福富孝弘君(4/14 地区研修・協議会)岡田雅隆君(4/14 地区研修・協議会)祖父江寿男君(4/17 各務原 RC)谷定貴之君(4/14 地区研修・協議会)

以上 86.27%を 94.12%に修正

前々例会の修正(4/9 分)

小川誠君(4/21eCLUBONE)

以上 98.04%を 100%に修正

祝 福 (松山基邦委員長)

おめでとうございます！！

会員誕生日	野村 憲治君	4月27日
会員誕生日	宮本 照剛君	4月29日
会員誕生日	谷津 義雄君	5月1日
在 籍 44 年	谷津 義雄君	5月6日



☆☆ お誕生日 おめでとうございます！ ☆☆

ニコボックス (小川保利委員長)

日比野万喜男君 宮本主監様、本日は早朝より護摩を焚いて頂きありがとうございます。そして成田山大聖寺スタッフの皆様、大変お世話になりましたありがとうございます。

(同文にて) 小川嘉吉君 稲垣圭次君 鈴木一成君 藤井友喜君 成田山大聖寺の皆様には大変お世話になります。杉浦照卓様のお話を拝聴できることを喜んで！

(同文にて) 埴田惣一君 原正男君 日比野良太郎君 保浦博志君 井川光雄君 板津英基君 伊藤和幸君 伊藤隆君 加藤浩一君 河田敏和君 兒玉寿君 近藤斉宏君 近藤俊也君 真野健二君 松平實胤君 松山基邦君 丹羽敬昇君 野村憲治君 小川宏嗣君 小川誠君 小川征一君 小川保利君 岡田雅隆君 奥村正幸君 大島匡博君 朱宮新治君 祖父江寿男君 高橋秀治君 田中進一郎君 梅田佳和君 山田直廣君 山根雄司君 安田一生君 安田新平君 吉田洋君

[illegible]

皆さん おはようございます。早朝より例会にご出席いただきまして、ありがとうございます。今日は、職業奉仕委員会の持ち出し例会です。保浦委員長始め、委員会の皆様よろしくお願い致します。

後程、成田山大聖寺 本堂課 課長 杉浦照卓様より、「仏教用語」という題目で法話をさせていただきます。よろしくお願い致します。

また、先程は宮本主監さんにより、皆様方のご健勝と犬山 RC の発展を祈願し、護摩を焚いていただきました。ありがとうございました。そして、今年もおいしい筍ご飯をごちそうになりました。毎年のことですが、私達のために早朝より、準備・配膳頂きました大聖寺の皆様にご改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、いつも感じる事ですが、成田山本堂での護摩の御祈禱の雰囲気には圧倒されます。音楽ホールなどの静かな空間で「パン」と手を叩くと、音は周囲の壁や天井に、はね返りながらしばらく「残響」として留まります。「残響時間」といいますが、これが長い程「音の豊かさ」を感じさせます。音楽ホールでは演奏家に快樂にも似た感覚をもたらすといわれています。

しかし、残響時間はあまり長いと、音と音の区別がつきにくくなって「明瞭さ」が失われていきます。この音の豊かさと明瞭さが両立するのが、その空間の「最適残響時間」になります。大理石で造られた教会の最適残響時間はだいたい 2.0 秒くらいで透明感のある響きが人々の心をふるわせます。音楽ホールですと、一般的には 1.8 秒くらいで、成田山の本堂は、その数値に近いのではないかと思います。お坊様たちのお経の響き具合がとても気持ち良いものになっていて、それに加え、護摩の「すす」で漆黒の空間になった中で、護摩を焚いた揺らぐ火が、真鍮の飾りに反射しながら妖しく光り、何ともいえない荘厳さを醸し出します。「有難さ」が増幅されているかのようでもあります。聴覚や視覚を使い五感にうったえ、真言宗の御祈禱とはこういうものだという演出になっているのではないかと思います。

職業奉仕の例会で、利益を得るのは会員の皆さんです。私も、建築設計を生業（なりわい）とする者として、前述のような事を感じながら自分の知識を向上させる職業奉仕を毎年ありがたくさせていただいております。

本日は、杉浦照卓様の法話でしっかり学ばせていただき、今後の私共の職業やロータリー活動に活かしていければと思っております。よろしくお願い致します。

以上、本日の会長挨拶と致します。ありがとうございました。

◎次年度幹事（加藤浩一君）

19・20年度のクラブ計画書各委員会事業計画の提出期限は4月末です。未提出の委員長の方は事務局まで提出をお願いいたします。

◎職業奉仕委員会（保浦博志委員長）

若手塾開催のご連絡

日 時：5月22日（水）18：00～

場 所：武寿し 犬山市大字羽黒字神明 60

対 象：入会 3 年以上 10 年未満の会員

参加費：5,000 円程

＊本日対象の方々にはご案内を配布。

ご出席下さいますよう宜しくお願いいたします。

◆ ◆

☆成田山名古屋別院大聖寺

本堂課 課長 杉浦 照卓様

「仏教用語」



皆様、おはようございます。恒例となりました当山での早朝例会を本年も開催されましたこと、誠に喜ばしきことと存じます。

これまでに、皆様は当山あるいは他の仏教寺院などで法話や講義などをお聞きになっていらっしゃるかと存じます。仏教に関しては大概のことはご承知であろうと存じますので、ここで質問を致しましょう。

仏教には到達すべき目的があるのですが、それは何でしょうか。日本における多くの仏教僧が一般大衆に対して様々な説法をしておりますが、その説法内容の詰まるところは何でしょうか。例えば「災害にあって困っている人たちを救うこと」とか「神仏の御利益によって最高の人生を、有意義な人生を過ごせるようにすること」とか、あるいは「生きとし生けるもの全てが、幸せに過ごせるようにすること」とかがありましようが、さて仏教がめざすもの、到達すべき目的は何でしょうか。

加えて、別の問いを致します。私ども仏教僧侶は一般の方から「お坊さんは、毎日修行しているのでしょうか？」とか「お坊さんは修行してますからねえ。」とか言われますが、なぜ仏教僧は修行をしていると言われるのでしょうか。一体全体、お坊さんは何のために、

どのような修行をしていると思われているのでしょうか。今回は、それらに関連する事柄として「仏教用語」という話題で話を致しましょう。

私どもが用いている日本語には、様々な単語、いわゆる語彙と呼ばれるものがあります。語彙という意味を日本を代表する国語辞典の一つ『広辞苑（第六版）』で調べてみますと、次のように記されています。

「一つの言語の、あるいはその中の特定の範囲についての、単語の総体、また云々」とあります。単語とは同辞典によりますと「文法上の意味、機能を有し、言語使用において独立性のある最小単位。文の成分となる。例えば、『花が咲く』という文における『花』『が』『咲く』など。」

普段、私どもが用いる単語の意味としては例文にある『花』とか『咲く』とかいうものを単語と呼んでいます。これよりは一般的に言われている「言葉」と言い換えましょう。それら言葉の中には仏教を起源とするもの、いわゆる仏教語が数多く含まれています。それら仏教語の中から、今回は二語ほどを取り上げて話を致したく存じます。

今から二十年ほど前の正月における話です。当山にアルバイトとして勤めていた学生と思われる女性二人より、次のような質問を受けました。

「お不動さまや阿弥陀さまを数えるときの単位は何ですか？」

私は、ドキッしました。そのような質問をこれまで問われたことがなく、全く不意を突かれた問いであったからです。しかし私にとって、彼女たちの質問は感心に価するものでありました。

「それは良い質問だねえ。木像や石像などの仏像は一体、二体と数えるけれども、お不動さまも仏（ほとけ）さまだからね。お釈迦さまと同じだから、一人、二人で良いでしょう。」と答えました。

すると二人が怪訝な顔を見せました。どうしたのかと尋ねますと「お不動さまの話をしているのに、何で『ほとけさま』が出てくるのですか？」というわけです。当初はピンと来なかったのですが、会話を進めるうちに理由がわかりました。彼女たちは「ほとけさま」という言葉の意味を「死んだ人、亡くなった人」と理解していたのです。

私どもは家族や身内、職場の同僚などの弔事に接しますと、亡くなった方のことを「ほとけ」とか「ほとけさま」とかと呼びます。「ほとけ」を漢字で表しますと「仏」となりますが、この言葉は仏教の術語から来ています。

先ずその意味するところを前述の辞書で調べてみましょう。すると次のように記されています。

「①㊦悟りを得た者。仏陀（ぶつだ）。④釈迦牟尼仏（しゃかむにぶつ）。②仏像、または仏の名号。③仏法。④死者またはその霊。⑤仏事を営むこと。⑥ほとけのように慈悲心の厚い人。転じてお人よし。」

様々な意味が記されていますが、仏とは「悟りを得た者、仏陀」あるいは「釈迦牟尼仏」というのが本来の意味なのです。申すまでも無く、彼女たちが理解している意味とは全く異なります。

このように、世間一般に用いられている仏教語（以下、仏教用語とする）の中で、本来の意味ではなく全く別の意味で浸透しているものがあります。

今回は、それらのうち二つについて話を致しましょう。

仏という漢字は一般に「ブツ、ほとけ」と読み、「ほとけ」というのが日本語としての読み方です。この仏とは仏教用語である「仏陀（ぶつだ）」に由来し、その先頭の一語を取り「ほとけ」と呼んでいます。仏陀とは古代インドの言語であるサンスクリット語の発音「ブッダ」を漢字で音写したもので「目覚めた者、最高の真理を悟った者」という意味です。そして、この世界において完全なる人格者のことを言い表します。

この世においてそのような人格者に出会うことは大変に困難なことで、その困難さは「盲亀の浮木」に例えられます。盲亀の浮木とは涅槃經という経典に記されているそうですが、大海原を泳ぐ目の見えない一頭のウミガメが海面に浮かんでいる木の孔に入ること、滅多にめぐりあえないという例えです。それと同じように仏陀とは中々巡り会うことができません。歴史上の人物で仏陀となった方は、約二千五百年前に出現した釈迦牟尼で、通称「お釈迦さま」と呼んでいるお方、ただ一人と言われます。

お釈迦さまのように悟りを得て仏になることを仏教用語で「成仏（じょうぶつ）」と言います。これも弔事でよく用いられる言葉ですが、成仏の「成」と「仏」との間に返り点（＝レ点）を入れて「仏に成る」または「仏と成る」と読み下します。しかしながら、この用語も本来の意味では用いられず、一般には「無事にあの世へ逝く」とか「さまようことなく亡くなる」、あるいは「死者の御霊が安らかに鎮まる」とかの意味合いで用いられています。

何故、これら仏教用語が本来とは全くかけ離れた意味で用いられるようになったのでしょうか。その理由の一つとして私が尊敬する人物の一人、渡辺照宏という学者の著書より、それに関する記述を拝借して記します。

「思うに日本人の成仏という考えは、鎮魂思想にもとづくものであろう。死者の靈魂は死の直後には不安定な状態にあり、ややもすれば生者に危害を加え、その生活を脅かす。死者にとっても生者にとっても不幸な結果を避けるために何らかの手段が講じられなければならない。死者はおおむね死ぬことを欲しないのであるが、中でも無理に死に追いやられたものの靈魂は生者にとって危険である。そこで鎮魂を目的とする宗教儀礼が行われる。その結果として得られる鎮魂を成仏とよぶようになった。全ての死者がただちに仏陀でないことは明白であるが、亡者という代わりに仏とよぶのは一種の歪曲語法であろう。このようにして仏教の基本的な用語が日本語としては全く別の意味で使われるようになった。」

「渡辺照宏著 岩波新書『仏教』より」

私どもは意識せずに仏教用語を用いておりますが、我が国に仏教が伝来してから約一五〇〇年ほど経つ間に、それらを用いる人びとの考えや行為によって、一部の仏教用語が本来とは全く異なる意味合いに用いられ、理解されて、現在に至ります。その代表的な用語の一つが「仏」であり「成仏」であります。

しかし本来の意味として、仏とは「悟りを得た者、真理にめざめた者」であり、仏となることを「成仏」と言うのです。

そして、皆様や私ども一人ひとりが真理にめざめて仏（＝仏陀）となること、それが仏教本来の目的なのです。



＝会長謝辞＝

杉浦照卓様には「仏教用語」についての法話をお聞かせ頂きありがとうございました。本来の「仏教用語」がよく分かりました。

私はもともと、言葉等の意味を探るのが大好きですので、今後も私の今の気持ちを大切に、今日のお話を参考にしながら生活していきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。



ご 報 告

○犬山RC同好会ゴルフ部だより

4月28日（日）犬山カンツリー倶楽部において平成時代最後となる第156回ゴルフコンペを開催しました。

当日は絶好のゴルフ日となり日頃の練習の成果を発揮できたのではないかと思います。激動の平成時代に相応しく前回の初代〇〇〇小川保利君と同様、今回も15アンダーで秘めたる力を見事に発揮した伊藤和幸君が優勝しました、・・・（凄い！）

成績は以下のような結果となりました。

		OUT	IN	GROSS	HD	NET
優 勝	伊藤和幸君	45	44	89	32	57
準優勝	安田一生君	49	47	96	24	72.6
第3位	山田直廣君	40	42	82	9	73
ベストグロス	山田直廣君	40	42	82		

優勝の二代目〇〇〇伊藤和幸様おめでとうございます。そして、入賞の皆様おめでとうございます。

（ニコボックス委員会はニコボックス〇〇〇委員会と改名ですかねえ・・・???）

次回開催日は、令和元年6月20日（木）犬山カンツリー倶楽部にて開催予定です。

平日を予定しています。多くの参加をお待ちしています。



優勝おめでとうございます♪